

会 議 録

1 会議名

第6回高士区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 委員視察研修について（公開）

(2) 自主的審議につなげるための高士区の現状分析について（公開）

3 開催日時

平成26年10月9日（木）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

公民館高士分館 2階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：飯野憲静、飯野秀一、上野忍、太田早苗、小林トシ子、塩坪恭平、
嶋田征夫、中川英一、保坂善夫、横川英男、横山とも子

・事務局：中部まちづくりセンター 北島センター長、恩田係長、小林主事

8 発言の内容

1 開 会

【小林主事】

定刻になりましたので、平成26年度第6回高士区地域協議会を開催します。本日の出席人員は11名全員出席です。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立することを報告します。

2 会長挨拶

【小林主事】

はじめに、塩坪会長からご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしくお願いい

たします。

【塩坪会長】

今日は皆さんお忙しい中、地域協議会に出席していただき、ありがとうございます。
10月に入ってから、朝晩めっきり寒くなりました。夕暮れも早く、暗くなっていますので、今日のように会議がある時は気を付けて、事故や怪我のないように、よろしくお祈いします。本日は委員視察研修及び自主的審議を行います。自主的審議については、そろそろ一番上の段階の計画のところを決められるように、今日は皆さん頑張っていたきたいと思ひます。では、よろしくお祈いします。

【小林主事】

ありがとうございました。それでは、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長から議長を務めていただきます。塩坪会長、よろしくお祈いいたします。

【塩坪会長】

それでは、以降の議事進行を務めてまいりますので、ご協力をお願いします。なお終了時間は、概ね午後8時を予定しています。スムーズな進行にご協力をお願いします。本日の会議録の確認者は名簿順により、嶋田委員をお願いします。

3 議 題

(1) 委員視察研修について

【塩坪会長】

それでは次第にそって進めさせていただきたいと思ひます。(1)委員視察研修についてです。例年行っておりますが、今回も行うかどうかについて皆さんからご意見をいただきたいと思ひます。事務局から候補を出してもらいました。それでは事務局のほうから説明をお願いします。

【小林主事】

— 資料に基づき説明 —

【塩坪会長】

ありがとうございます。事務局に、もう少し詳しくお聞きしたいというのはありませんか。なければ、研修を執行するかどうか、地域協議会として決めますが、皆さんもお勤めの方やお忙しい方もおられますが、こういう研修は一人ではなかなか行けないので、こういう研修に出ることによって、皆さんの知識を深められることになる

思いますので、検討をよろしくお願いします。

本年も実施するかどうか、いかがでしょうか。

【飯野秀一委員】

実施した方がよいと思います。

【塩坪会長】

毎年行っているのですが、実施した方がよろしいという声が出ましたが、皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(よしの声)

では、実施することに決定します。

次に、実施時期と実施場所について審議していただきたいと思いますが、時期については、受け入れ施設によって調整しなくてはいけないので、先に研修先について検討したいと思います。研修先について、皆さんご意見をお願いします。

【横川委員】

研修ということになりますと、おそらく平日ということになります。私はまだまだ現役でありますので、ちょっと平日は無理です。ましてや日曜日だと、11月はこれから全て埋まっています、ちょっと意見を申し上げる立場ではございません。

【塩坪会長】

では嶋田委員はいかがでしょうか。

【嶋田委員】

どこでもよいですよ。皆さんに従います。

【塩坪会長】

そうですか。小林委員は、お忙しいので横川委員と同じ様な状態だと思いますが、日にちによっては行けるところもあるかも知れませんが、ご意見いかがでしょうか。

【小林委員】

あまり遅くなると、十日町とかは雪はどうなんですか。

【北島センター長】

去年、十日町の池谷集落へ11月14日に視察に行きました。朝、雪が降りまして、十日町の玄関の辺りは真っ白になりました。膝まで埋まるということではなかったのですが、くるぶしくらいまで白くなっていました。こちらは、十日町のほうでも奥深

い所なので、11月後半になれば少し雪の心配は出て来るかと思えます。

【飯野副会長】

先ほどの説明の中では、中越大震災から10年ということで、山古志の震災状況とかそういう部分を見たり聞いたりしたいなど、私は思います。

【塩坪会長】

横山委員、いかがでしょうか。

【横山委員】

私も、横川委員と同じで、視察に参加できるかどうかハッキリと分からない立場ですが、もし行くとしたら、高士区に参考になるとすると、「限界集落」という意味でも池谷集落でもよいかと思うのですが、こちらの集落は、インターネットやSNSでもいっぱい情報を発信しています。活動している内容も大規模です。なので、あまり直接的に高士区には参考にならないかなという点で考えると、昨年も出ましたけど、「ねごしの里」がよいと思います。高士区と同じ様な地域ですし、規模的にもそんなに大きくない所での活動としては、一番参考になるんじゃないかなと思います。

【保坂委員】

横山委員、昨年も同じ意見を言われていましたね。

【横山委員】

そうです。よく覚えていますね。

【塩坪会長】

上野委員いかがですか。

【上野委員】

地域にあった形で、池谷集落がよいんじゃないかと思えます。

【飯野秀一委員】

私は①の長岡市の農村レストランと山古志がよいと思います。

【塩坪会長】

あと聞いていないのは、太田委員いかがですか。

【太田委員】

私も興味があるのは、①の農村レストランと山古志です。

【塩坪会長】

中川委員いかがですか。

【中川委員】

希望ね。農村レストランと山古志に行ってみたいです。

【塩坪会長】

では、横山委員には申し訳ありませんけど、皆さん行ってみたいと言っていますので、①の農村レストランと山古志にします。

期日のほうは17日か19日になりますが、どちらを第1希望日にしましょうか。

津有区と合同になるので、津有区の第1希望日はどちらでしょうか。

【北島センター長】

第1希望が17日と伺っていますので、もし皆さんの都合がよければ、17日できかがでしょうか。

【塩坪会長】

そういうわけで、津有区の第1希望日が17日なので、高士区の第1希望日も17日でよろしいですか。

(よしの声あり)

では、第1希望日は11月17日ということで、決定させていただきます。どうもありがとうございました。

【小林主事】

今、高士区協議会の視察先を①長岡市の農村レストラン「すがばたけ」と、山古志の復興交流館「おらたる」と決定していただきました。日にちについては11月17日を第1希望日ということにします。

明日、受け入れ先の「すがばたけ」と「おらたる」に確認を取りまして、日にちを確定したいと思います。今のところ、受入先は11月17日で大丈夫とのことですので、このまま11月17日で確定になるかと思っています。来週以降になりますが、委員の皆様へ、郵送で視察についてのご案内をさせていただきます。その時に、視察への出欠について回答をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【塩坪会長】

事務局から説明がありましたように、来週以降に案内が皆さんのところへ届くと思いますので、よろしくお願いします。

(2) 自主的審議につなげるための高士区の現状分析について

【塩坪会長】

これは前回から続いています。高士地区地域協議会としての共通認識を持って、自主的審議を進めたいということで、今までの経緯について事務局から説明をお願いします。

【小林主事】

— 資料に基づき説明 —

【塩坪会長】

事務局から説明していただきましたが、高士区地域協議会としての意見を統一したいと思うので、確認しますが「高士地区地域協議会として、若い世代との意見交換会の実施に向けて、今後も協議を進めていく」こととしてよろしいでしょうか。

(よしの声あり)

【飯野副会長】

若い人から色々なご意見を聞かなければ、私たちはどういう事を皆さんが思っているのか分からない状況です。このまま自分たちだけで色々な事を話していても、この先協議を行う課題を見つけにくいので、若い世代の皆さんから話を聞いた方がよいと思います。

【塩坪会長】

今までどおり、これを進めていくという意見ですね。他の皆さんはいかがですか。

もう一度確認しますが、若い世代から聞き出したい事について協議を進めていきたいと思います。実際に、若い世代と意見交換を行う時に、委員の皆さんが「参加した若い世代にどんな質問をしてみたいか」について、意見を出していただければと思っています。本日、皆さんからいただいた意見を参考にして、どのようなテーマで意見交換を行うかを決めたいと考えております。いかがでしょうか。

【横川委員】

若い人から話を聞きたいと言っても、「若い人たちが今の我々に何を聞きたいか」、それから「どんな要望を持っているか」、まずはそういう部分で、話を聞くだけではなくて、若い人たちが自分たちの世代にどんな要求を突き付けるのかというのを、やっぱり聞いてみたいです。

第1期の協議会でも言ってきたのですが、我々が「若い」と言われていた時代からもうだいぶ経ちました。その「若い」と言われていた時代に、「お前は何を考えていたのか」と言われると、今の若い人たちに、「あなたたちは今、何を考えているのか」

と聞くこと自体が酷な話でもあるのかなと思います。ただ、今の若い世代は、「今までに高士を本当に変えようと思ったことや話し合ったことがあったのかどうか」を知りたいですね。

それと同時に、今ここにおられる委員の皆さんが、「本当に高士区を変えようとしているのか」、「変えようとするなら、どういうふうに変えようとするのか」、やっぱり自分たちがきちんとした考え方を持っていないのに、若い世代に意見を聞いても、まとまらないだろうという部分があると思います。

今、想定している若い人たちよりももっと若い人たち、「小学生が何を考えているのか」、「高士に対してどんな夢を持っているのか」、その辺から掘り出していないと今の若い人たちは多分、自分たちの生活で精一杯で、高士の事なんて考えていられないという部分が多いだろうと思います。

中川委員もご存じのとおり、私たちも「高士を何とか変えよう」という事で、一時期「のぞみの会」という会を作りまして、色々頑張ってきたのですが、やはり何も変えることができなかつた。それは、自分たちがしっかりとしたビジョンを持っていなかったことが原因だと思います。私たちは、「本当に高士を何とかしたい」という気持ちだけはあったのですが、「どういうふうなことをしたらよいのか」というビジョンを持っていなかったために、変えることができなかつたというのが事実です。

だからこそ、本当に高士を変えようとするなら、小学生から夢を聞いて、そこからどんどん広げていったほうがよいんじゃないかなという気持ちです。

【塩坪会長】

はい、ありがとうございます。では、横山委員お願いします。

【横山委員】

私が書いてきたことは、ここの例題にもあるのですが、「自分たちの子供が大人になった時に、高士区がどんな地域になっていて欲しいか」ということが、非常に参考になったのですが、横川委員が発言されたように、実際問題として30代とか40代の子育て世代は共働きで、時間的にも経済的な部分でも余裕がないと思います。ただ、「自分たちが今何か出来るのか」と言ったら、何もできないし、面倒くさいと思うのですが、「将来、自分たちの子供が大きくなった時に、住みやすいまちになって欲しい」ということは思われるでしょう。ですから、「そのために自分たちは何ができるのか」、「何をやる必要があるのか」ということであれば、思いはあるでしょう。

「今の自分たちができること」ではなくて、「将来、子供たちにどういう暮らしをさせるために、どんな高士になっていて欲しいのか」という問いかけをしてみたいです。

それから単純に「高士のここが好き、ここが嫌い」というところをどう感じているのかです。年代によって、好きだと思っているところと、嫌だと思っているところが意外と間逆だったりとすると思うので、そういう単純な意見を聞いてみたいと思います。

【塩坪会長】

ありがとうございました。次に保坂委員、お願いします。

【保坂委員】

私は、意見を聞くというよりは、「現状認識」というか、「若い人たちが高士に住んで、あるいは高士にお嫁さんに来て、どういうふう到高士を見ているか」、「どういうふうを考えているか」ということを聞いてみたいと思います。さっきも言っていましたが、子育て世代の人は、やっぱり子供を育てていく中で、何か悩みがあるだろうし、その中で高士をどういうふうに見ているかということ、つまり「若い人が何を考えているか」を最初に聞いてみたいと思います。

また、高士区には振興協議会をはじめ、いろいろな団体があるけど、現状が何も分からないまま、「高士まつり」もずっと続けてやっています。続けていけば無難だということで今までやってきましたが、その事についても「本当にやってもらってよいと思っているのか」、「そんなことは必要ないと思っているのか」、「若い人は高士をどう見ているのか」というのを聞いてみたいと思います。

【塩坪会長】

中川委員はどうでしょうか。

【中川委員】

皆さんが言われたように、高士の現状を把握して、良い方向へ変えていくようにしなきゃいけないんですけど、どうやって若い人の意見を引き出すかと、それで皆さん考慮していると思います。忙しい人たちですから、何かそれに対して引っ張り出すものがないかと考えていたんですけど、なかなか難しい問題で、どうしたらよいかなと思っていますのですが、一応活性化させるような方向へ、話を持っていきたいと考えます。

【塩坪会長】

嶋田委員、どうでしょう。

【嶋田委員】

難しい問題ですよ。若い人を取り込んで話すというのは、難しいと思います。この間、町内の会合に若い人を引き出して話を聞こうとしたけども、なかなか出て来ないんです。だから、若い人の意見を取り込むことができない状況なんです。そこをどうやったらよいか私は一番難しいと思います。

【塩坪会長】

小林委員、お願いします。

【小林委員】

運動会とかお祭りになると、若い方は結構沢山いるのですが、いざとなると、本当にこういう事に対してどのくらい興味を持っているのか。正直言って、この協議委員になって初めて「高士ってこんなことやっているんだ」とか、そういうことを自分自身が知ったように、若い人たちは、高士の団体や活動にどの程度興味を持っているのでしょうか。それと、婦人会の役員をやっていますが、各地区は当番制だと聞きました。そういう人は何かあった時にしか集まらない。それをどうやって若い人の話を聞くか、私には全く見えません。だから、さっきおっしゃったように、私たちが何をできるのかということが、私自身、自信がありません。

【塩坪会長】

太田委員はいかがでしょうか。

【太田委員】

婦人会が主催で敬老会をやっています。その中で、各地区から2人とか3人お手伝いしていただいているのですが、若い方が出て来られると、「どうしてこんなことをしなきゃいけないのか」と言われる方が、一部ですがいます。だけど、敬老会に来ていらっしゃる高齢の方は、もの凄く喜んで「毎年ここに来るのが楽しみだ」と言ってくれる方もいるので、お手伝いに来ている方も、そういう言葉を聞いて、「頑張ろう」と思う方もいらっしゃいますが、一部では「こんな事をして何になるんだ」とか、そういう意見もあるんです。

だから、何かをやるという時になると、私たちだけが頑張っただけであって、他の人たちに何も反映されていないのかと思っています。何かをやるということになると、自分たちの興味がないものは絶対に参加しないというか、子供たちのクリスマスとか

小正月とかを婦人会でやっているのですが、「父母の方も一緒に参加してください」と言っているのですが、なかなか参加してくださらないんですよ。子供たちを預けて、そのまま帰ってしまうという状態が続いています。「子供たちと一緒に遊んでください」、「私たちはそのお手伝いをします」という感じでやっているのですが、誰一人父母の方はいらっしゃいません。だから、私たち婦人会だけで、そういう行事をやっています。

こういうこともあって、若い人の気持ちというのが私もよく分からないですね。だから、ちょっと難しいと思いますよ。若い人たちに「高土のことをどうにかしてください」と言っても、難しいと思うんですよ。

【塩坪会長】

では、上野委員はどうでしょうか。

【上野委員】

確かに難しい問題ですよ。まず、私たちが子供の時代は、農業が主力でしたし、家で農業をされている方も多かったわけですが、それが今はもう農業が調子悪くなっていく中で生活していかななくてはいけないから、どこか外へ出てお金を稼ぐのが主力だというような状況の中で、「地域おこし」だとか言って、若い人に色々な事をやらせようとしたって、振り向いてくれないのが実情だと思います。

その辺をどう解決したらよいかということですが、これは時間をかけて、何とか皆で協力し合って地域で働けるような場所作りですかね。例えば、大きなことを言えば、企業を連れて来るとか、何か高土地区の中で定着出来るような、そういうことをしていかないと、いくら話をしていってもまとまらないと思います。単発的に、「あれをやったらよいのではないか」、「これをやったらよいのではないか」と言ってやれば、5年や10年は続くかもしれないけど、花火みたいにパッと咲いて散っちゃうんじゃないかと、私は懸念しています。これから高土を背負っていく若い皆さんは非常に可哀想だなというのが実感です。

【塩坪会長】

ありがとうございます。飯野秀一委員はいかがですか。

【飯野秀一委員】

この地区は、やっぱり水田だよ。若頭の跡取りがやっているのだけでも、「今度はお前たちの番だよ」と言った時に、「私はやるよ」という人はなかなかいないのです。

だけでも、結果的にそうなるかどうかというのと、「国破れて」じゃないけどね、「高士がなくなっても、あなた方はよいのかね」というような問いかけをしながら話し合いをするようにしたらどうかと思います。

【塩坪会長】

副会長はどうでしょうか。

【飯野副会長】

いつも皆さんの意見をお聞きした後で発言する順番になっていますが、私自身もなかなか、「若い人は何を考えているのか」、「皆さんどういうことを要望として持っているのか」というのが、自分たち自身が分からないんだよ。少子高齢化とされるように、私たちの地域は間違いなく、もの凄く進んでいるわけです。その中で、新たにここに職場を求めるような企業が入って来たり、人が集まるような教育機関ができたり、今回ノーベル賞をいただいたような、大学教授がここに来れば、「あの先生がいる学校に行きたい」というように、上越市の中からも、もの凄く人が集まってくると思うのです。必ずしも、物を作ったりする作業だけではなくても、教育とか、そういうものが出来るのかなと思ったりもしています。

今住んでいる若い人だけでなく我々も、今後どういうふうにするかというのは、広く皆さんから聞く必要があります。ただ、言われるように自分たち自身が基準もない、何にも焦点も合っていないのに、地域の皆さんに集まってもらって「あなたたちは何がしたいんだ」と聞いても、答えを出すのは、なかなか難しいと思います。しかし難しいからといって止めていても前へ進まないし、前回も事務局からお話しがあつたように、諏訪区で行った「住民との懇談会」の場合は、「1回目は集まったけども、2回目は来なかった」というような状況になるかもしれませんが、何らかの形で1回目は声をかけて、集まるか集まらないか、まずはやってみた方がよいのかなというふうに思っています。

で、私自身が若い人に何を聞くのかと言われると、なかなか難しい部分もあって、何を聞いたらよいのか悩むけど、「高士には、保育園も小学校もあるけども、ここに親子3代4代もずっと住んでいく気持ちはありますか」と聞いた時に、今住んでいる人たちが全部イエスという回答にはならないと思います。「集落の皆がいなくなれば、私だっていなくなる」と言ったりすると思います。前を向いた話じゃなくて、後ずさりの話で申し訳ないです。

【横川委員】

先程から「若い人たちに話を聞く」という協議をしていますが、話を聞くということ自体が、上から目線だと思います。そうではなくて、聞くという態度よりも、やっぱり「同じ方向を向きながら話をさせていただく」ことが、大切だろうと思います。

「若い人たちの考えていることは分からない」と言うけど、多分私たちの親も、私たちに対して、「今の人たちは分からない」というような話を出すと思います。では、その時に自分たちはどうしてきたかというような部分も、過去を振り返って考える必要があると思います。

18歳の人たち、23歳の人たち、30歳の人たちと話しをするときは、自分たちも、身体も心も若返った気持ちで話をしないと、「俺は65歳だから」、「75歳だから」という立場で話をすると、もうそこでギャップが出ているわけですから、やっぱり同じ様な立場で話をする、同じ様な目線で考えて、そこから話の糸口を見つけるということが一番必要なんじゃないかなという気がします。

ただ、そこでどのような話の仕方をしようというのは、私も専門家でないので分からない部分もありますが、私たちもスポーツなどで、若い子と一緒に遊べるというのは、そういう話し方や接し方をするから、若い人たちも積極的に話をしてくれるだろうと感じています。

【塩坪会長】

皆さんから沢山意見をいただきましたが、私も横川委員から見れば大分歳も変わっていますので、合わない部分もあるのかもしれませんが、今のところ皆さんの意見は、大体同じようなことだと認識しました。

「若い世代の考えていることが分からない」ということであれば、飯野副会長の言ったように、意見交換会を1回目は実施して、2回目は集まらなくてもよいから1回目はやってみようかというのもよいと思います。意見交換会に出て来てもらって、出てきた話の内容を、皆さんと一緒に協議していけば、次に繋がっていくかと思います。話し合いで、皆さん全員が賛同することはないと思いますが、私も話し合いの中に入ろうという方が沢山いればよいと思うんですね。次にテーマを決めて、進めていきたいと考えています。

私の考えているのは、「高士の良いところ、悪いところを皆さんで話し合おう」というテーマ、もう1つは「地域協議会と地区振興協議会の仕事の流れについて知ってい

るかどうか」を皆さんに聞いてみたいと思います。

テーマを決めて、地域振興協議会や婦人会、体育協会の皆さんに協力していただきたいと思っています。その地固めするには、どういうテーマがよいか、魚釣りに例えれば、良い餌で皆さんを釣り上げるという感じですね。

私は以前、営業の仕事はずっとしていましたが、お客さんの所に行って話をする時は、お客さんの好きな事を調べて行くんですね。酒が好きなら酒ね、飲み歩きが好きなら、そういうのに交際費を付ける。

話がそれましたが、高士をよくするために、皆さんでやっていける事を考えていただければと思っています。

【飯野副会長】

今、会長の言われたように1つのテーマとして、「高士の良いところ、悪いところを皆で話し合おう」という、これも1つの良いテーマだと思いますね。具体的に、イベントがどうだとか敬老会がどうだとかでなくて、全体の方法論としては、皆で「良いところや悪いところはどこなんだろうね」という話し合いを行うのも1つの方法かなと思います。

【横川委員】

さっき横山委員も言われましたけど、「高士の好きなところ、嫌いなところ」ということで、テーマはいっぱいありますけど、1つか2つにして、時間的にも30分か1時間くらいの中でやっていくということがよいと思います。

私ども、運動会の後などの反省会で、若い人たちと酒を飲む機会がありますが、結構色々な話をするんですよね。若い人たちは結構考えている事は、考えているんです。ただ、それを会議の場で上手く話せるかどうかという部分もあるのですが、良いところと悪いところ、好きなところと嫌いなところという誰でも考え易い部分から、1つ2つをテーマにして入るのが、最初としては取っ掛かり易いのかなという気がします。

【塩坪会長】

テーマだけでも今日は決めたいと思います。後については、横川委員の言うとおりに、若い皆さんと楽しく懇談ができるような方法を、また皆で検討すればよいので、今日のところはテーマを重点的に出してもらおうと思います。

【横山委員】

会長の言われるテーマから少しずれてしまいますが、皆さんの意見をお聞きしていると、去年から始まって「コミュニティのあり方」という部分を検討してきても、途中で色んな話が入ったりするので、4回目5回目になっても何となく今この状態というのが現状です。やっていけばいくほど、どんどん分からなくなっているのが現状だと思います。

今、皆さんが言われたように、「若い人が考えていることが分からない」という事と、それから横川委員が言われたように、「同じ目線で話をしないと意見も出しにくい」という点で、長引かせば長引かせる程、どんどん余計、私たちも分からなくなると思います。

方法論になってしまいますが、以前「コーディネーター」という話をしたと思うのですが、第三者に入ってもらって、まとめ方の上手な人に入ってもらう事が可能なのであれば、そういう形にした方がよいと思います。そうしないと、次に何をするかといった時に、またそこで考えなくてはいけなくなります。やっぱりある程度、知識を持った人に少し導いてもらう方がよいのではないのかと思います。

ここでまた、「ここが好き、あそこが嫌い」と出たとしても、さっき太田委員が言われたみたいに、自分たちが興味のある事には参加するかもしれないけども、要は若い人たちは、当事者意識がまだないわけですね。その当事者意識を持ってもらうためにも、「私たち対若い人たち」という形でなくて、第三者に入ってもらった方が、当事者意識は上の人たちから言われるという感じではなくて、「ああ、やっぱり自分たちで変えていかなきゃいけないのだな」という事を、コーディネーターから教えてもらうような形にしたら、よいかと思います。その土台を作らないことには、また次も同じことの堂々巡りになってしまうのかなと思うので、方法論になってしまうのですが、そういう形で、誰か講師なりコーディネーターを入れてもらう事は無理でしょうか。

【塩坪会長】

ありがとうございました。テーマからずれましたけども、これも1つの方法論としては、よいことだと私は思っています。それで、これから色々と皆さんからご意見や情報も頂いてやっていければと思います。

それでは、今日のテーマについてまとめたいと思いますが、今日まとめてよろしいですか。それとも次回にしますか。

先ほど、事務局が言われたとおり、第4回目と5回目の会議では、市からの報告等

も入りまして、時間的にはそちらの方が多くて、自主審議をほとんどやらないような状態が続いていました。今日、テーマが決まっていなくて、また元に戻ってしまうので、皆さん今まで出たご意見の中で、どのようなテーマにしたらよいか、2つくらい出してもらいたいと思います。

【保坂委員】

俺が聞きたいのは、漠然としているんだけど「若い人たちが高士をどういうふうに見ているのか」ということです。現状意識ですね。

【小林委員】

高士区の良いところと悪いところを、私たちのもっと先輩の方で、講師もできるような方で、その人たちの話を高士の言葉で、硬い言葉じゃなくて、「おまんたね」とか、そういう言葉で「高士はこういうところが昔はよかったんだよ」とか、「将来はこうなって欲しいんだ」とか、話していただければ、もしかしたら若い人も来るかもしれないと思いました。

【塩坪会長】

それも一つの方法ですね。他に皆さん、いかがですか。

【太田委員】

あんまり硬い話だと、人が来ないと思います。若い人の興味をそそるようなテーマにしないといけないですね。

【塩坪会長】

だから、そのテーマを皆さんに考えていただきたいわけですよ。

【太田委員】

テーマとしては、「高士の良いところと高士の悪いところ」とかの単純な言葉でよいんじゃないんですか。その中で、また色々な意見が出てくると思います。

【飯野秀一委員】

本当は、お茶飲み話みたいなのが一番よいんだけどね。「高士をどうしましょうか」とか「意見を聞かせてください」と言っても後ずさりしてしまう人もいると思います。

【横川委員】

本当に軽く、問いかけるのであれば、「高士の良いところと悪いところを、おまんた一緒に話してみんかね」とか、そういう地元の言葉で、まず問いかけをするというのは、よいのかなと思います。そういうことをテーマにとりあえず開催して、そこから

1つ2つ広げられればというような考え方でよいのではないですか。

【飯野副会長】

では「高士の良いところと悪いところを皆で話し合おう」ということを1つのテーマとしてよいと思います。

【横山委員】

その話し合いをしようとしても、若い人は集まるかなって疑問があります。要は、呼びかけのチラシにしてもタイトルにしても、結局それを見るかどうかです。前にも支援事業の説明会を行った時に、「皆さん来てくださいね」というのを回覧版で回しても、誰も来ないですよ。なるべく見てくれそうなチラシを作ってくださいったと思うのですが、やっぱり来ないんです。だから、何かしら今までと違う事をしないと、あらかじめ消防団やバレーボールの人たちなどに根回しをしておけば出てくるかもしれないけれど、結局のところ義務感で来られるとすると、硬くなって良い意見は出ないと思います。今までどおりの、「何となくこれでよいかな」という気持ちでやっていたら、あまり変わらないかなという気がしなくもないのは、私の正直な気持ちです。

コーディネーターも地元の間人がやれば一番よいと思うのですが、第1段階として土台を作るという部分で、聞く耳を広げてやらないと、若い世代も聞く耳を持たないと思うんですよ。さっき、誰かが発言されていましたが、自分たちにメリットがなければやりたくないのが、若い人たちの今の感覚でしょうから。

さっき、敬老会の話もありましたが、こども会のクリスマス会の時には自分たちの子供が関係するから、それには参加するという話かと思ったら、それも子供だけ参加させて、自分たちは協力しないという状況ですから、それを何とか盛り上げようということになれば、大変ですよ。

でも、今年度の支援事業の時に提案された、「高士スターズ」の意見を聞くと、色々な意見は持っているわけですよ。でも、本当に一部だと思うので、それを上手に掘り起こさないと、結局また「集められた」という形になって、次につなげるのであれば、慎重に考えてやらないと、また迷宮入りしてしまうかなと思います。

もし、コーディネーターをお呼びするにしても、そこに戦略がないと難しいかなと思います。池谷集落なんかも、結構本格的なコーディネーターが入っていますよね、十日町や三条なんかも、専門的なコーディネーターが長期間入ったりして、やっと前進したというのが事実だと思うので、素人のやれることと、考えてやっている専門家

の人たちとは違うかなというのは、思うところですね。

【飯野副会長】

要は人集めをする、人寄せをする役がないわけだ。確かに横山委員が言うように、各団体に出てきてくれと言っても、出てきた人たちが本当にラフな気持ちで出来るのかどうかというのは疑問だけど、どういうふうなチラシを作ろうか、例えば「素晴らしい人が来ますよ」ということになれば、人は来るかもしれないけど。回覧版で回ったって、「何かやっているな」という程度で、来ないと思うよ。ただ手を広げて「来なさいよ」なんてしたって来ないとは思う。

【恩田係長】

外部の方から助言をいただくということで、市で予算を確保していますから、コーディネーターを入れることも可能です。今後の話し合いによって、皆様が希望されるようであれば、事務局で調整させていただきたいと思います。

【塩坪会長】

分かりました。

では、今日の会議はこれで終わりにします。11月は視察研修がありますので、よろしくをお願いします。

4 その他

【塩坪会長】

その他ですが、事務局をお願いします。

【北島センター長】

事務局から1点ご報告させていただきます。冒頭、会長さんからも夕暮れの事故についてお話していただいたのですが、実は他の地区の協議会の委員さんが地域協議会に出席するため、徒歩で会場へ向かう途中に、交通事故に巻き込まれた方いらっしゃいました。幸い大事には至らなかったのですが、今日もそうですけど、午後6時を過ぎれば真っ暗になってしまいますし、皆さん方の交通手段はそれぞれ違うかと思いますが、特に徒歩や自転車でおいでなる場合は気を付けていただければと思います。交通事故の注意喚起ということで、ご報告させていただきました。

【塩坪会長】

次回の会議の日程については、正副会長と事務局で調整し、後日皆さんにお知らせすることとしてよいでしょうか。

(よしの声)

では、次回の会議の日程は事務局と正副会長で決定させていただきますので、よろしく申し上げます。

5 閉 会

【塩坪会長】

本日の議題は全て終了しました。副会長から挨拶をお願いします。

【飯野副会長】

皆さん今日はお疲れのところ、ご苦勞様でした。昨日は、十三夜ということで、しかも3年ぶりの皆既月食ということで、空を見られた方もおられると思います。今日は来られる途中に見ましたとおり、綺麗なお月さまが出ておりまして、私どもの会議も常にああいうふうな、透き通ったお月さまのようにいけばよいのかなというふうと思うところです。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。